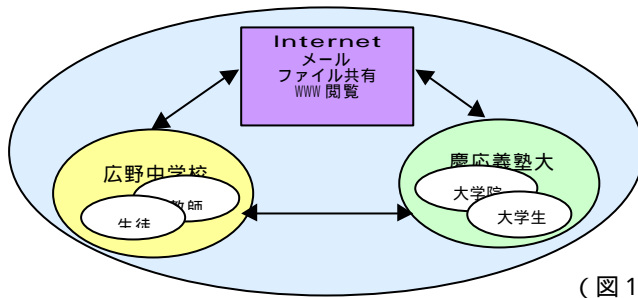


「 お金と現代社会 」

- “バーチャル・クラス” で学ぼう！お金と社会のこと -



(図 1)

中学校 3 年・総合
福島県双葉郡広野町立広野中学校
原田 忠孝

慶応大学大学院 政策・メディア研究科
三輪大介・木幡敬史・稲葉陽子・林 亮
安藤のぞみ・須子善彦・斉藤美絵

<http://zeniken.jp/>

1. 企画の概要

総合的な学習の時間における教材作成や授業運営（生徒たちとのコミュニケーションを含む）を外部参加者との協力体制の下に実現した。また、学習テーマを「お金と現代社会」とし、身近でありながらもその意味・本質をじっくり考えることの少ない「お金」をめぐる事柄について学習した（お金の成り立ちと仕組み、株式、為替、会社の成り立ち等）。さらに、“学生対抗円ダービー”や“Stock リーグ”など、多くの学生が参加している学習の場を積極的に活用し、学習成果を学内外で相互に評価しあう機会を多く設けた。なお、以上の活動を全面的に支えるものとして、インターネット上の協同的学び合いの場を“バーチャル・クラス”と位置づけた。

(図 1 参照)

2. 企画のねらい

(1) 企画実践の目的

- 現実社会に直結した学習テーマを設定し、総合的な学習の時間における指導方法を研究する。
- ネットワーク・インフラの有効的な活用を通して、より大きな学習効果を図る。
- 仮想空間を学習の場として活用するための教材を開発する。

(2) 成果目標

- “生きる力”に直結した学習テーマの選定と授業実践を図る。
- 円滑かつ有意義なグループ活動を展開する。
- ネットワーク・インフラを有効に活用する。（操作性、活用度合い、学習への効果など）
- グループ・ウェアを有効に活用する。
- 仮想空間を学習の場として活用するための例示とする。

3. 企画の特徴

(1) 企画のポイント

- ネットワーク・インフラや情報機器の新たな活用方法を研究
- 学習テーマにおける新規性：お金と現代社会
- 学習形態として新規性：グループ・ワークを中心とし、多様な他者のあり方を認め、共に学び合える環境の実現

(2) 対象者および実施期間

- 対象者：福島県広野町立広野中学校 3 年生（総合的な学習の時間における本コース選択者 15 名）
- 実施期間：2001 年度 1 学期および 2 学期 総合的な学習の時間（毎週金曜日 5 時限目）
- 学校規模：全校生徒 225 人 3 学年生徒数 87 人

(3) 実施体制と指導方法

- 実施体制：広野中学校長および社会科担当教員を中心とした教員の参加・協力。さらに慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の大学院生による下記二つのプロジェクトから、学習テーマの選定、授業方法・環境整備の企画立案、実践参加を含めた全面的な協力を得た。

『Mag21 プロジェクト』指導教員：斎藤信男（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科長 a）

『モバイル広域ネットワークプロジェクト』指導教員：村井純（慶應義塾大学 環境情報学部 教授）

4. 実践の内容

(1) 指導方法

基本的な学習スタイルは生徒の自主的なグループ学習であるが、授業には担当教諭の他グループ毎に大学院生あるいは大学生がメンターとして参加した。

(2) 学習内容

一学期は三グループ構成（「日本のお金と歴史」「会社と株とお金」「為替」）で基礎事項の学習とグループ毎の成果発表を行った。為替班は円ダービーで260チーム中32位、中学生のみでは5位という成績を得ている。二学期は上記グループ毎にStockリーグへのエントリーを果たし、株式の基礎事項を学び、ポートフォリオを作成、実際に投資活動を行った。

なお、学習の全過程において、ネットワーク環境の利用方法を理解し、効果的に活用することを学んだ。

(3) 企画実施全日程

3/27：企画に関するミーティング

4/：実施環境の現状把握，環境の整備，企画妥当性の検討

5/15：事前準備

5/18：一学期のガイダンス（顔合わせ，自己紹介，活動内容の説明，質疑応答）

5/25：メンターによるグループ別インプット授業（学習用資料は支援者サイドで作成）

6/ 1：グループ・ワーク（学習用資料は支援者サイドで作成）

6/ 8：グループ・ワーク（学習用資料は支援者サイドで作成）

6/15：グループ・ワーク（学習用資料は支援者サイドで作成）

6/22：学習内容のまとめ（最終発表をどのように行うか決め，これまでの学習内容をまとめた）

6/29：最終発表の準備（効果的な発表を実現するための準備を行った）

7/ 6：一学期の成果発表（グループ毎に学習した内容を発表，質疑応答）

9/21：二学期のガイダンス（ネットワーク活用，Stockリーグ参加等の説明，質疑応答）

9/28：グループワーク（Stockリーグ：参加に向けた準備，株式の基礎事項を学習）

10/5：グループワーク（Stockリーグ：専用Webの活用）

11/9：グループワーク（Stockリーグ：二学期の活動について中間発表）

11/30：グループワーク（Stockリーグ：ポートフォリオ作成）

12/7：グループワーク（Stockリーグ：提出用レポート作成）

12/14：グループワーク（Stockリーグ：提出用レポート作成）

12/21：実施内容に関するアンケート調査

1/：実践内容に対する考察，報告書作成

5. 実践の評価

学期末にアンケート調査を実施し，学習テーマおよび実践方法の有効性・有益性が成果として表れた。特に，これまでなかなか目が向かなかった経済分野への関心が強まり，活気にあふれた学習活動が展開できた。その後ろ盾になったのが，外部メンターの参加やインターネットの活用であると思われる。この総合的な学習の時間における外部参加者との協力体制が，教材作成のみならず，授業の運営や生徒とのやり取りを含め，新たな視点を与えてくれることがわかった。しかし，企画実施におけるコミュニケーション・コストが高つくという点は今後，考慮すべき点である。

6. 問題点と課題

バーチャル・クラスとしての枠組みを十分に活かすことができず，グループ・ウェアの活用など実現できない面もあったが，ネットワーク・インフラの十分な活用に至る筋道はできたと思われるので，今後どう活かしていくかが課題である。

外部参加者との連携をはかるためのコミュニケーション・コストがかかり過ぎた。（時間的・予算的制約）